

乙訓の学び

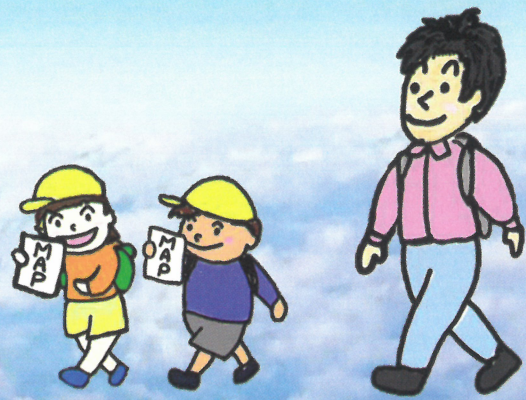
「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、単元全体を捉えて「引率スタイル」と「オリエンテーリングスタイル」という視点をうまく組み合わせた授業デザインになっているか、一緒に考えてみましょう。

引率スタイル



- 教員が地図を持って目的地まで連れて行く。
⇒子どもは教員の後をついて行く。

オリエンテーリングスタイル



- 子どもが地図を持って自分の力で目的地に向かう。
⇒教員は必要な時にサポートする。



授業デザインにおいて、単元全体を捉えて「引率スタイル」と「オリエンテーリングスタイル」の両方の視点をうまく組み合わせることが大切です。このリーフレットでは、子どもたちが「学びの地図」を持ち、「何のためにするのか」が明確な学習活動に取り組みながら、必要に応じて他者と相談したり、学習を振り返って調整したりするなど、見通しをもって学びを深めていく「オリエンテーリングスタイル」の視点に焦点を当てた授業デザイン例について示しています。

「オリエンテーリングスタイル」の視点での授業デザイン例

- ★「学びの地図」を子どもたちに示し、ゴール（育成したい資質・能力）を共有（目標設定）
- ★その目的地に行く必然性を感じられる仕掛け（課題設定）
- ★必要な情報を集められているか、チェックポイントの設定（形成的評価）
- ★どのルートで進んで行くか他者と協力して考察（協働的な学び）
- ★より良い進み方を考えて軌道修正（自己調整力）
- ★道に迷っても、転んでも、しんどくても、あきらめない（粘り強さ）
- ★時には、自分の力で地図に載っていない新たな道を開拓（課題解決能力）
- ★たどってきたルートが適切なものであったかの確認（自己評価）
- ★スタートからゴールまでの成長を記録（総括的評価）

